カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックスESPIO 105WR（エスピオ105WR）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ105WR」は、38ミリ広角から105ミリまでのズームを備え、フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載した防水機能付きのズームコンパクトカメラです。

- 説明文中の　　　内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。
- 70、71ページに切り取って使える「クイックガイド」がありますので、ご利用ください。

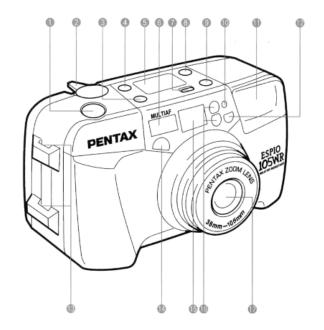
「林檎の秘密」
すぐに役立つ写真の基礎知識

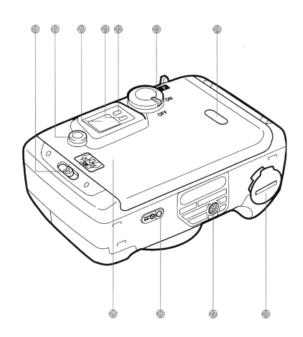
露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。お求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。

記号について

記号	
操作の方向	←
自動的に動きます	⇔
注目してください	（破線の円）
点灯します	（光線）
点滅します	（点線）
正しい	○
間違い	×

各部の名称

❶シャッターボタン[15 ページ]
❷ズームレバー[16 ページ]
❸AFボタン[36 ページ]
❹セルフ／リモコンボタン[36 ページ]
❺表示パネル[64 ページ]
❻測距窓
❼デートボタン[55 ページ]
❽ストロボ／バルブボタン[34 ページ]
❾赤目軽減ボタン[35 ページ]
❿セルフタイマーランプ[43、46 ページ]
⓫ストロボ発光部
⓬リモコン受光窓[45 ページ]
⓭ストラップ通し[13 ページ]
⓮補助光発光部[27 ページ]
⓯ファインダー窓
⓰受光窓
⓱レンズ

各部の名称（背面）

⓲裏ぶた開放レバー[17 ページ]
⓳視度調節ダイヤル[21 ページ]
⓴ファインダー接眼窓
㉑赤ランプ[24 ページ]
㉒緑ランプ[24 ページ]
㉓電源スイッチ[14 ページ]
㉔フィルム情報窓
㉕裏ぶた[17 ページ]
㉖途中巻き戻しボタン[32 ページ]
㉗三脚ネジ穴[42 ページ]
㉘電池ぶた[60 ページ]

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⃠ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

⃠ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。

⃠ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。

⃠ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

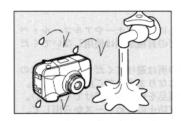
⚠ 注意

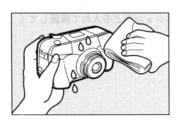
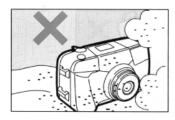
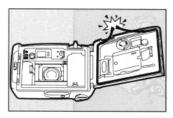
⃠ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。

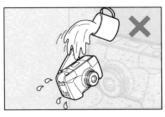
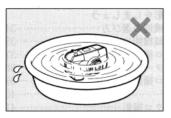
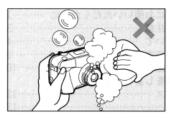
⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- 強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- 高性能を保つため、1〜2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- カメラの使用温度範囲は−10℃〜50℃です。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。

防水機能について

- このカメラは防水機能になっていますので、雨や水しぶきなどを気にせずにお使いいただけます。

- 水中撮影はできません。

- 使用後は、カメラに付いた水滴や汚れを早いうちに乾いた柔らかい布できれいに拭き取ってください。

・カメラに大量の砂や泥がかかると故障の原因になりますので、浜辺などでは砂の上にカメラを直接置かないでください。

・防水パッキンやパッキンの当たる面にゴミや砂が付いたときは良く拭き取ってからご使用ください。パッキンやパッキンの当たる面に傷が付いたり、へこんだり、パッキンがはがれると防水機能が損なわれます。このような場合、当社のサービス窓口にご相談ください。

・汚れのひどいときや海水がかかったときは、電源が切れていること、裏ぶたと電池ぶたが確実に閉まっていることを確認してから、水道水を少し流しながら水洗いするか、底の浅い洗面器などに真水をため、短時間(2～3分)でカメラを付け洗いしてください。

・カメラ内部は防水機構になっていません。フィルムや電池の交換時に水・泥・砂などがカメラの中に入ると故障の原因になります。

・耐水設計になっておりませんので、長時間水中につけたり、高い水圧での水洗いは避けてください。

・石けん水・中性洗剤・アルコールなどでの洗浄は、防水機能を損ないますので避けてください。コーヒーやジュースも防水機能を損いますので、カメラに付かないようにご注意ください。

目　次

裏ぶたを開けます。
［17 ページ］

フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
［18 ページ］

自動的に1コマ目まで巻き上がります。
［20 ページ］

電源を入れます。
［14 ページ］

ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
［16 ページ］

ピントを合わせたいものをファインダー内の〔〕の内側に合わせます。［25 ページ］

シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります［26 ページ］

フィルムが終わると自動的に巻き戻しが始まります。
［30 ページ］

こんな写真を撮るには？

ピント関係

ストロボ関係

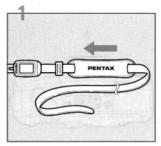
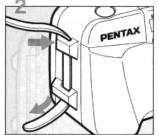
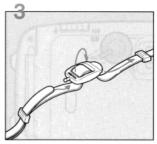
ズーミング関係

人物撮影関係

風景撮影関係

その他

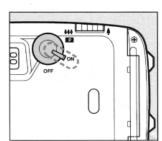
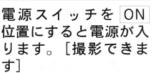
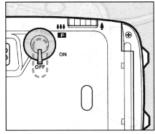
撮影前の準備をしましょう

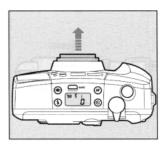
カメラをケースに入れるときは、電源を切ってから入れてください。
ソフトケース内側には、リモコンを収納するためのポケットがあります。

1. ストラップに肩当てを通します。

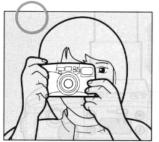
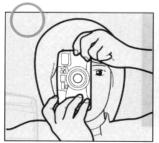
2. ストラップの先端部分を図のように、カメラのストラップ通しに通します。

3. カメラに通したストラップの先端部分を図のようにストラップ通し→留め具→ストラップ通しの順に通します。

ストラップの図のⒶの部分は、フィルムの途中巻き戻しのときに、Ⓑの部分は電池ぶたの開閉のときにご使用ください。[32、60 ページをご覧ください]

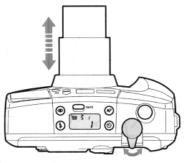
電源スイッチを ON 位置にすると電源が入ります。[撮影できます]

使用しないときは、必ず電源スイッチを OFF 位置にして、電源を切っておいてください。

電源を入れるとレンズが少し前に出ます。

※電源を入れたまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にレンズの長さが最短になります。[焦点距離 38mm]
※3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本を使用します。電池を抜いた場合は、時刻が0時0分に変わりますので、必ず時刻の修正をしてください。
※低温では、一時的に電池の性能が低下することがあります。
※海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

カメラの構え方

撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。[強く押すとカメラが動いて、きれいな写真が撮れません。]

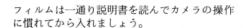
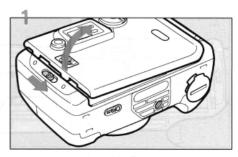
※カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。影が自然な方向に出ます。

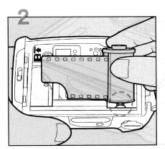
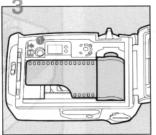
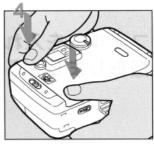
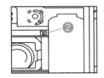
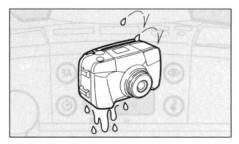
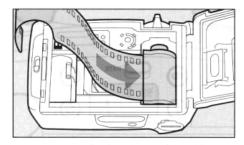
- 落下などの原因になりますのでレンズ部分を持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

ズーミングをしましょう[38～105mm の範囲でズーミングできます]

ズームレバーを ♠ 側に動かすと、遠くのものを大きく写せる105mm側へ、 ♠♠♠ 側に動かすと広い範囲を写せる38mm広角側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの大きさにして撮影してください。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。

フィルムを入れて撮影しましょう

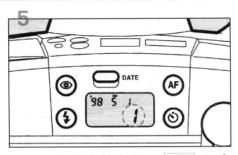
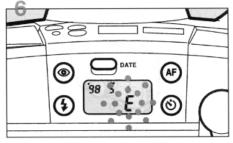
フィルムは一通り説明書を読んでカメラの操作に慣れてから入れましょう。

1. 図のように、裏ぶた開放レバーを押し下げ、裏ぶたを開けます。

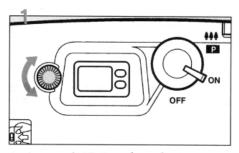
● フィルムは、直射日光の当たらない所で入れてください。

2. フィルムの凸側を上にして、下側から先に突起に差し込むように斜めに入れ、次に上側を入れます。

3. フィルムの先端を❶のフィルム先端マークまで引き出します。

4. 裏ぶたの両端を図のように押さえて「カチッ」と音がするまでしっかりと閉めてください。

フィルム検知部❷にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。

裏ぶたの両端が完全に閉まっていないと、カメラ内部に水が入ったり、光漏れの原因になります。

フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。

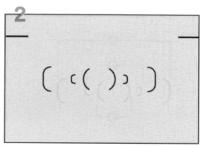
フィルム感度について

フィルムを入れるだけでフィルム感度は自動的にセットされます。

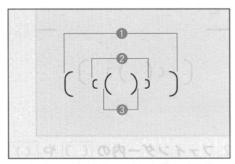
※ISO25～3200までのフィルムが使えます。
※手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なフィルム感度400の使用をお勧めします。

- 必要以上の高感度フィルムをお使いになるときれいな写真が撮れないことがあります。
- DX以外のフィルムは、フィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。
- フィルムはまっすぐにたるみがないように入れてください。

5. フィルム枚数表示の 1 が出て自動的に止まります。必ず枚数表示が 1 になっていることを確認してください。

6. フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに E が点滅して知らせます。フィルムを正しく入れ直してください。

※フィルム枚数は、電源が切れていても常に表示されます。

視度調節

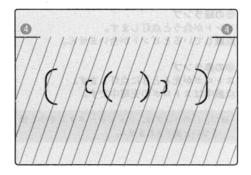
1. カメラを明るい方へ向け、ファインダーを覗きながら視度調節ダイヤルを回します。

2. ファインダー内の〔 〕や（ ）の線が最もはっきり見えるようにしてください。

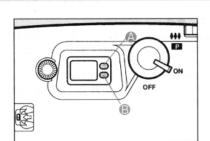
※視度調節は、ご使用前に必ず行なってください。

ファインダー内表示

表示が見えにくいときは、視度調節を先に行なってください。[21ページをご覧ください]

❶の〔 〕および❷の〔〕表示
5点AFを選択時のピントの合う範囲です。この内側にピントを合わせたいものが来るようにしてください。

❶は焦点距離が105mmの場合、❷は焦点距離が38mmの場合です。これ以外の焦点距離の目安は、例えば中間の焦点距離(約70mm)では、ピントの合う範囲も❶と❷のほぼ中間となります。

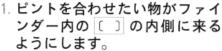
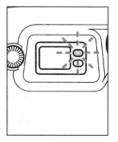
❸の（ ）表示
スポットAFを選択時のピントの合う範囲です。この内側にピントを合わせたいものが来るようにしてください。

❹の ― 表示
撮影距離がおよそ1.2mより近距離では図の斜線部分に写したいものを入れてください。ただし、パノラマ撮影の場合は、ファインダーで見えている範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、1.2mより近距離での撮影はお勧めできません。

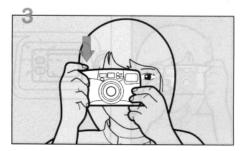
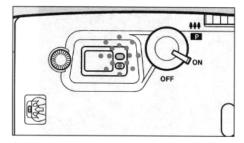
ランプ表示

ファインダー接眼窓の右横には、Ⓐ、Ⓑのランプ表示があります。

Ⓐの緑ランプ
ピントが合うと点灯します。
点滅しているとピントが合いません。

Ⓑの赤ランプ
ストロボが光るときに点灯します。
点滅中はストロボの充電中です。

※Ⓐ、Ⓑのランプは、シャッターボタンを少し押さないと表示されません。

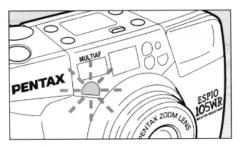
1. ピントを合わせたい物がファインダー内の〔 〕の内側に来るようにします。

2. シャッターボタンを少し押すと自動的にピントが合い、緑ランプが点灯します。

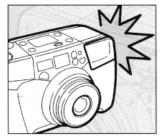
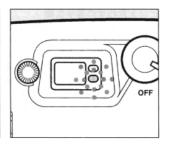
※このカメラは、5点AFですから、写す物が画面中心から多少外れていても比較的ピントが合い易くなっています。
※一度緑ランプが点灯してから別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。
※撮影できる距離は、0.65mより遠くです。
※サービスサイズのカラープリント[パノラマプリントを含む]では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

3. 緑ランプの点灯後、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

緑ランプが点滅しているとピントが合いません。撮影するときは、必ず緑ランプの点灯を確認してください。

● 測距窓が汚れていると、正しいピント合わせができなくなります。
● 緑ランプの点滅中でも撮影はできますが、ピントは合いません。

ピント合わせの苦手な物

オートフォーカスは、万能ではありません。写したい物の条件が下の例のような場合、ピントの合わない場合があります。そんなときは、写したい物とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしてください。フォーカスロックについては、50ページをご覧ください。

a) 白い壁や青空などの極端にコントラスト（明暗差）の低い物の場合。
b) 真っ黒なものなど、光を反射しにくい物の場合。
c) 非常に速い速度で移動している物。
d) 横線のみや細かな模様の場合。
e) 遠近のものが同時に存在する場合。
f) 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）。

補助光について

暗いところなどではピントが合いにくくなります。こんなときにシャッターボタンを少し押すと、自動的に赤色光（補助光）を光らせてピントを合わせ易くします。

ストロボ自動発光

このカメラでは、写したいものが暗いときや逆光のときに、ストロボが自動的に光ります。

シャッターボタンを少し押して、赤ランプが点灯すれば、ストロボが光ります。

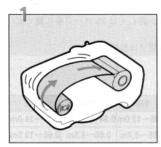
赤ランプの点滅は、ストロボ充電中でシャッターが切れません。点灯を確認してから撮影してください。

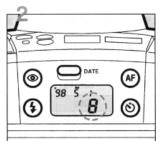
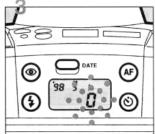
※このカメラには、ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは35ページをご覧ください。
※ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

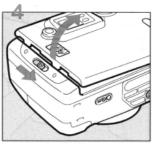
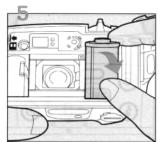
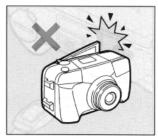
ストロボ撮影できる距離［ネガカラーフィルム使用時］

レンズ ＼ ISO	25	50	100	200	400	800	1600	3200
38mm(♠♠♠)	0.65～2.1m	0.65～3.0m	0.65～4.2m	0.65～6.0m	0.65～8.5m	0.65～12.0m	0.84*～17.0m	1.2*～24.0m
105mm(♠)	0.65～1.2m	0.65～1.7m	0.65～2.4m	0.65～3.4m	0.65～4.8m	0.65～6.7m	0.65～9.5m	0.65～13.5m

*高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります.

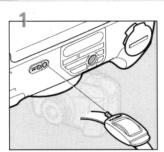
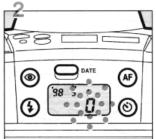
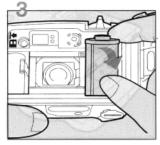
フィルムを取り出しましょう ［フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう。］

1. フィルムを最後まで撮り終えると、自動的に巻き戻しが始まります。

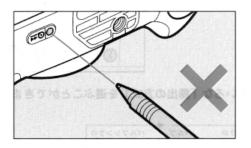
2. 巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。

3. 巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように表示パネルの 0 が点滅して知らせます。

※巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
※巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、すべて巻き込まれます。

4.裏ぶたを開けます。

5.図のように上側から先に引き出してからフィルムを取り出します。

巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。

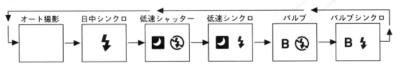
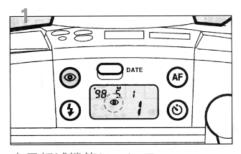
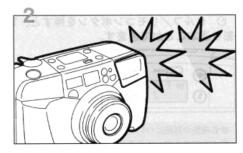
※規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムの最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。ただし、36枚撮りフィルムでは、36枚目撮影後すぐに巻き戻しが行われます。

● 12および、24枚撮りフィルムでは、フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。

フィルムの途中巻き戻し

1.フィルム途中巻き戻しボタン ⊳⊙ をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]

2.巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの 0 が点滅します。

3.表示パネルの 0 の点滅を確認してから、フィルムを取り出してください。

※途中巻き戻しは、電源が切れていても可能です。

ストラップ留め具以外で巻き戻しボタンを押さないでください。巻き戻しボタンを傷付けることがあります。

いろいろな撮影をしましょう

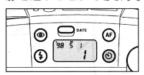
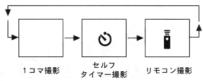
ϟ ストロボ／バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。

※各機能の詳細については、それぞれの説明ページをご覧ください。
※通常の撮影では、「オート撮影」に合わせてください。電源を一旦切ると「オート撮影」に戻ります。
※「オート撮影」以外でシャッターを一度切って撮影した後に ϟ のボタンを押すと、「オート撮影」に戻ります。

赤目軽減機能について

1. 赤目軽減ボタン［◉］を押すと表示パネルに［◉］が表示されます。

2. このときにストロボ撮影を行うと、ストロボが撮影直前と撮影時の合計2度発光し、目が赤く写るのを目立たなくします。もう一度押すと解除されます。

ストロボ撮影の赤目現象について

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側[38mm側]で撮影すると、発生しにくくなります。

［セルフ］セルフ／リモコンボタンを押すと、1コマ撮影・セルフタイマー撮影とリモコン撮影を選ぶことができます。

※各機能の詳細については、それぞれの説明ページをご覧ください。

※セルフタイマー・リモコン撮影では、シャッターを一度切った後に［セルフ］ボタンを押すと「1コマ撮影」に戻ります。

※通常の撮影では、「1コマ撮影」に合わせてください。電源を一旦切ると「1コマ撮影」に戻ります。

［AF］AFボタンを押すと、5点AF・遠景とスポットAFを選ぶことができます。

※各機能の詳細については、それぞれの説明ページをご覧ください。

※遠景撮影では、シャッターを一度切ると「5点AF」に戻ります。

※通常の撮影では、「5点AF」に合わせてください。電源を一旦切ると「5点AF」に戻ります。

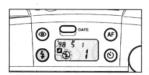
ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに ϟ 表示を出し撮影します。

昼間の明るいときでもこのモードを使うと常にストロボが光ります。帽子などで人物の顔が暗くなってしまうときに利用すると、影の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご利用ください。

● 日中シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。29 ページをご覧ください。

ストロボなし

ストロボ使用　日中シンクロ

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに 表示を出し撮影します。

暗くてもストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。ストロボを光らせませんので、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真を楽しめます。

● 低速シャッター撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

低速シンクロ撮影

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに ◘⚡ 表示を出し撮影します。

夕景などを背景に人物撮影をするときに使います。

※低速シンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は遅いシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

- 低速シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。29ページをご覧ください。
- 低速シンクロ撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

バルブ撮影
ISO400で約3秒の撮影

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに B⊛ 表示を出し撮影します。

花火や夜景の撮影など、シャッターを長時間開き続けて撮影をする場合にご利用ください。

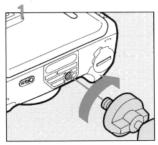
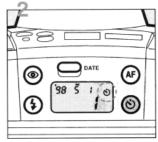
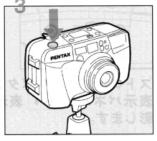
※バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約5分]
※長い時間シャッターボタンを押し続けるほど、明るい写真になります。

- バルブ撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに B⚡ 表示を出し撮影します。

夜景などを背景にした人物撮影にご利用ください。

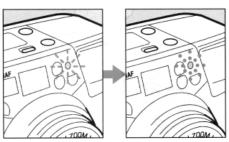
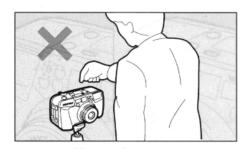
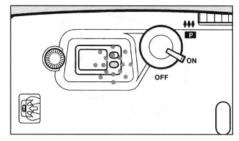
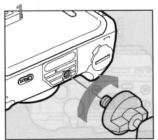
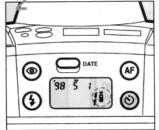
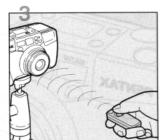
※バルブシンクロでは、バルブ撮影でストロボを光らさせます。人物にはストロボ光を当て、背景は長時間のシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。
※シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。［最長約5分］

- バルブシンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。29ページをご覧ください。
- バルブシンクロ撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

1. カメラを三脚に取り付けます。

2. セルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに ⏲ 表示を出します。

3. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。

※セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、シャッターボタン以外の操作ボタンを押してください。

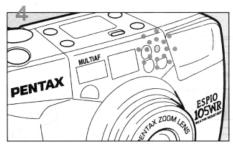
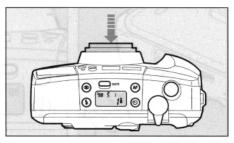
4

4. 約10秒後に自動的にシャッターが切れます。

セルフタイマーの作動中は、表示パネルの ⏲ の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約 3 秒前からセルフタイマーランプは点滅に変わります。

カメラの前側に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので後側でスタートさせてください。

ストロボ充電中［赤ランプ点滅］のときは、ストロボの充電完了［赤ランプ点灯］を確認してから、セルフタイマーをスタートさせてください。

1. カメラを三脚に取り付けます。

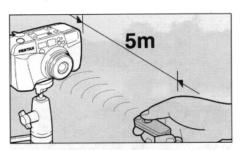
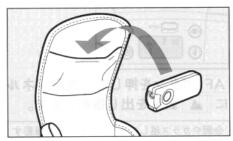
2. セルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに [リモコンマーク] を出します。

3. リモコンをカメラ正面に向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

表示パネルに [リモコンマーク] が表示されると、セルフタイマーランプがゆっくり点滅します。

4. セルフタイマーランプが早い点滅を3秒間した後シャッターが切れます。

リモコン撮影モードのまま約5分間放置すると、自動的にレンズの長さが最短になります。[焦点距離38mm]

※バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約5分]

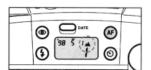
※リモコン撮影時には、リモコンのシャッターボタンを押したときにファインダー内の [ ] や ( ) の内側に入っているものに、ピントが合います。

リモコン撮影のできる距離はカメラ正面から約5m以内です。

リモコンを使用しないときは、ソフトケース内側のポケットに入れておくと便利です。

※逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
※ストロボ充電中はリモコン操作はできません。

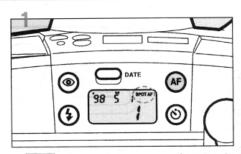
● リモコンは防水機構になっておりませんので、水などが付かないようにご注意ください。

リモコン用電池について

約30,000回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

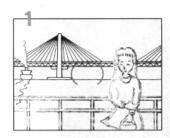
遠景撮影

AF ボタンを押して、表示パネルに ▲ 表示を出し撮影します。

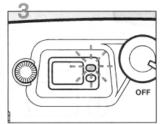
金網やガラス越しの遠くの風景などを撮影するときにご利用ください。ピントが遠くに固定されますので、誤って近くの金網やガラスにピントが合ってしまうのを防げます。

※一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
※露出方式が「オート撮影」では、暗くてもストロボは光りません。

1. AF ボタンを押して、表示パネルに SPOT AF の表示を出します。

2. 画面中央の （ ） の内側にピントを合わせたいものが来るようにして撮影します。

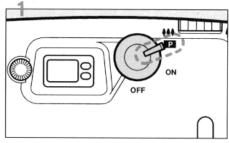
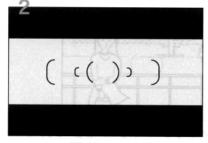
ファインダー内中央の狭い範囲だけでピント合わせを行いますので、特定の部分にピントを合わせたいときなどにご利用ください。

※ピントを合わせたいものが画面中央にない場合は、フォーカスロック撮影をご利用ください。50ページをご覧ください。

1. ファインダー内のスポットAFフレーム （ ） が人物から外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。

2. ピントを合わせたいものに （ ） を合わせます。

3. シャッターボタンを少し押して、緑ランプを点灯したままにしておくと、ピントが固定されます。

※フォーカスロックは5点AFでも可能ですが、スポットAFでの使用をお勧めします。
※このとき、露出も同時に固定されます。

4. シャッターボタンを少し押したまま元の写したい構図にして、シャッターを切ります。

※フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

1. 電源スイッチを P 位置に合わせます。

2. 図のようにファインダーがパノラマ用に切り替わりますので、この中に写したいものを入れて撮影してください。

このカメラでは、フィルムの入ったままでも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

※1.2mより近距離でのパノラマ撮影は、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、お勧めできません。

このカメラでは、パノラマ撮影でも日付や時刻を写し込むことができます。

赤線は日付や時刻の写し込まれる位置

パノラマプリントについて

パノラマで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、できるだけ付属のパノラマシールをフィルム［パトローネ］に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

● パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合→

混在
パノラマ/標準

● フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合→

全数
パノラマ

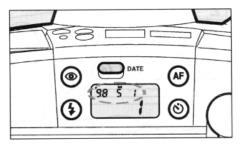
※パノラマ撮影の場合、通常の同時プリントに比べ多少日数、料金が多くかかります。
詳しくは、お店でおたずねください。

※パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

※パノラマ撮影では、フィルム上に約13×36mmの大きさで画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。ただし、この範囲はズーミング位置によって多少違います。

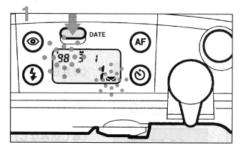
※パノラマプリントは約89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

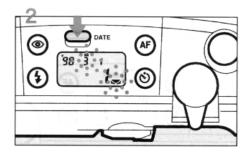
例えば1998年5月1日、14時30分の場合は、図のように表示が変わります。

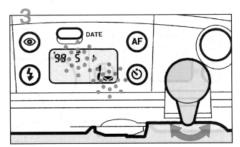
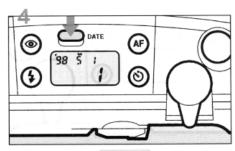
（年月日）
（日時分）
（写し込みなし）
（月日年）
（日月年）

写し込む内容を選びます

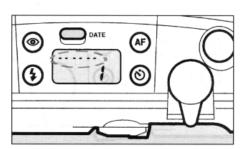
DATE ボタンを爪で押して希望の表示を選んでください。

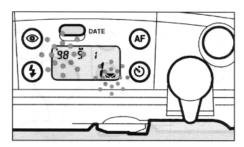
このカメラは、2030年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、ほぼ正しくセットしてあります。

※電源が切れていると表示の切り替えはできません。
※表示パネルに表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。
※日付や時刻を写し込みたくない場合は、------ を表示させます。
※表示パネルのMは「月」の位置を示しています。

日付や時刻の修正

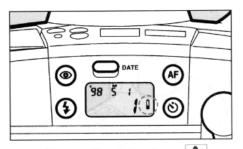
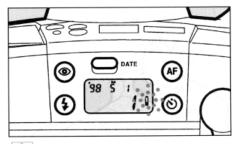
1. **電源を入れ、DATE ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 が点滅します。**

2. **DATE ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。**

※電源が切れていると日付や時刻の修正はできません。
※修正中[点滅表示中]は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。
※「年月日」表示の「年」は、1998年では「98」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

3. ズームレバーを左右に動かすと点滅している数値を変更できます。右に動かすと数値は進み、左に動かすと戻ります。動かし続けると約1秒後からは続けて変化します。

4. 修正後は、DATE ボタンを何度か押して点滅をなくします。

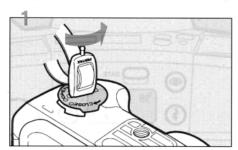
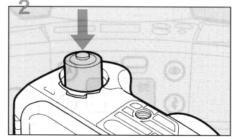
※「分」表示の点滅状態で、DATE ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。
※「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。
※パノラマ撮影でも日付や時刻の写し込みができます。

電池交換を行うと、時刻が「0時0分」に変わり、写し込み禁止モード ------ になります。必ず時刻の修正を行ってください。

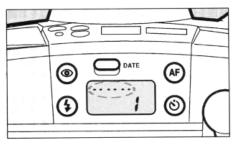
電池交換後は、DATE ボタンを3秒間押さなくても「年月日」の「年」とズームレバー表示 が点滅し、修正モードになります。

● 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい物があると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものがこないようにしましょう。
● 規定枚数を超えたコマでは、日付や時刻が正しく写し込まれない場合があります。

この写真の数字はハメコミ合成です。

電池が消耗してくると表示パネルの ▯ マークが点灯して警告します。早めに新しい電池と交換してください。

▯ マークが点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

撮影できるフィルム本数［24枚撮り］
通常の撮影モードでストロボの使用率を50%にした場合　約13本
［CR123A電池・当社試験条件による］

※低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できる本数が少なくなります。

1. ストラップを利用して、電池ぶたの図の部分を OPEN 側に回して電池ぶたを開けます。

2. CR123A相当品の電池１本を − 側から先に入れてください。

3. ストラップを利用して電池ぶたを CLOSE 側に回して閉めます。

電池を外すと時刻が「0時0分」になり、写し込み禁止 ------ になります。必ず時刻の修正を行なってください。[修正は56ページをご覧ください。]

※フィルム枚数および日付[年月日]はそのまま記憶されています。
※電池を交換しても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。
※海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： ● 電源は入っていますか。電源を入れてください。[14ページ] ● 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[59、60ページ] ● 表示窓に 0 が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[17、30ページ] ● 表示窓に E が点滅している場合は、フィルムが正しく入っていません。正しく入れ直してください。[20ページ]
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： ● ピントを合わせたいものをファインダー内の [ ] か ( ) の内側に入れて撮影してください。[25、49ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[15ページ] ● 測距窓が汚れていませんか。[15ページ]
症状3：ズームレンズが勝手に動いた。	原因・対処3： ● 電源を入れたまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にレンズの焦点距離は38mmになります。[14ページ] ● リモコン使用時は、放置後約5分間たつと、自動的にレンズの焦点距離は38mmになります。[46ページ]

症状	原因・対処
症状4：リモコンによる操作ができない。	原因・対処4： ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約5m です。この範囲内でリモコンを操作してください。[47 ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[47 ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[47 ページ] ● リモコンの電池が消耗している。[47 ページ] ● リモコン撮影モードになっていますか。[45 ページ]
症状5：暗くないのにストロボが光る。	原因・対処5： ● 逆光でも自動的にストロボが光ります。[28 ページ] ● 表示パネルに ϟ が表示されていませんか。[37、39、41 ページ]
症状6：表示パネルに HE あるいは LE の表示が出る。	原因・対処6： ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

CE	このマーク（CE）は、安全性・環境および消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとは、フランス語の Comunité Européen（欧州共同体）の略語です。

各部の名称

液晶表示[LCD]について

● 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
● 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

アフターサービスについて

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中[ご購入後1年間]は保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社各サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。運賃諸掛りについてもお客様にご負担願います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口でお手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行しております。[保証期間中のみ有効]

主な仕様

形式……………………ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ[デート付き]、水洗い防水※1（JIS保護等級5・防噴流型）

使用フィルム…………35mmDXフィルム専用[135パトローネ入り] ISO25～3200自動感度セット[1EVステップ] DX以外＝ISO25固定

画面サイズ……………24×36mm[パノラマ撮影時は13×36mm]

フィルム入れ…………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ

巻き上げ………………自動巻き上げ式

巻き戻し………………フィルム終了時自動巻き戻し式[巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒]巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能

撮影枚数………………自動復元順算式、巻き戻しに連動[減算]

外部表示………………表示パネルにLCD液晶表示

レンズ…………………ペンタックス38～105mmF4.5～11電動ズームレンズ　5群6枚　画角59°～23.5°

ピント合わせ…………パッシブ5点AF方式、スポットAF可、フォーカスロック可、撮影測距範囲＝0.65m～∞[最大倍率約0.19×]、遠景撮影あり[ピントは無限遠に固定]、補助光あり

ズーミング……………電動式

シャッター……………プログラムAE電子式シャッター＝約1/400～4秒、バルブ[1/2秒～5分]、電磁レリーズ式

セルフタイマー………電子式ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能

ファインダー…………実像式ズームファインダー、視野率83%、倍率0.43×[38mm側] 1.03×[105mm側]視度調節付き －3～＋1D[ディオプトリー]、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠、パノラマ視野枠、ファインダー右横緑ランプ点灯：撮影可能　点滅：測距不能・近距離警告、ファインダー右横赤ランプ点灯：ストロボ発光　点滅：ストロボ充電中

※1：水洗い防水
水洗い防水とは、JIS規格で定めた防水能力の分類を、カメラでも分かり易くするために、日本写真機工業会（JCIA）が日本写真機工業規格（JCIS）として作成した防水クラスの1つで、JIS保護等級の5、6、7級が水洗い防水に相当します。

露出……………………プログラム式自動露出[マルチ測光]
露出連動範囲[ISO400] オート、日中シンクロ時＝EV10～EV18[38mm 側]
EV14～EV20[105mm 側] 低速シャッター撮影時＝EV4～18[38mm 側]
EV5～20[105mm 側] 逆光時自動露出補正可
露出計スイッチ………シャッターボタン
ストロボ………………オートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート＝低輝度、逆光時自動発光、ストロボON＝日中シンクロ／低速シンクロ[4 秒まで使用可能] バルブシンクロ＝1／2 秒～5 分
ストロボ撮影範囲……[ISO400 使用時] 38mm 側＝0.65～8.5m、105mm 側＝0.65～4.8m
ストロボ充電時間……約 5 秒 [当社試験条件による]
リモコン………………赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押しで 3 秒後撮影、作動距離＝カメラ前面約 5m 以内
リモコン電源…………リチウム電池[CR1620] 1 個[サービスセンター交換]
リモコン大きさ・質量[重さ]…50[幅]×22[長]×9.5[厚]mm 9g [電池含む]
電源……………………3Vリチウム電池[CR123A相当品] 1 本使用
撮影可能本数…………24 枚撮りフィルム使用時 約13本[ストロボ 50%使用、当社試験条件による]
電池消耗警告…………表示パネルに [電池マーク] が点灯、点滅時シャッターロック
デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[西暦 2030 年まで、閏年は自動修正]、パノラマ時写し込み可能
データ写し込み方法…フィルム前面からの写し込み
データの種類…………❶年・月・日 ❷日・時・分 ❸-- -- --[データ写し込み無し] ❹月・日・年 ❺日・月・年
大きさ・質量[重さ]…132[幅]×76[高さ]×58.5[厚み]mm 360g[電池別]
付属品…………………ストラップ、肩当て、ソフトケース、リモコン

PENTAX® ESPIO105WR クイックガイド

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）
こんな写真を撮りたいと思ったときに、表示パネルに下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

[⚡] ボタン

[ ] オート
最も一般的なモードです。暗い所や逆光では自動的にストロボが光ります。

[⚡] 日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが光ります。帽子をかぶった人物撮影など、逆光以外で人物が暗くなってしまう時に使います。

[発光禁止 低速] 低速シャッター
暗くてもストロボを光らさせません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

[⚡ 低速] 低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

[発光禁止 B] バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

[⚡ B] バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを光らさせます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

[セルフタイマー] ボタン

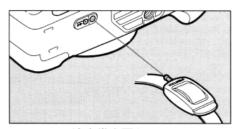
[セルフタイマー] セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。

[リモコン] リモコン
カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。
リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

[AF] ボタン

[▲] 遠景撮影
ガラス越しの遠景などを撮影するときにご利用ください。

[SPOT AF] 撮影
ファインダー内中央の狭い範囲だけでピント合わせを行いますので、特定の部分にピントを合わせたいときなどにご利用ください。

PENTAX® ESPIO 105WR クイックガイド

フィルムの途中巻き戻し

1. フィルム途中巻き戻しボタン ⏩◎ をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]
2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの 0 が点滅します。
3. 表示パネルの 0 の点滅を確認してから、フィルムを取り出してください。

※ 途中巻き戻しは、電源が入っていなくても可能です。

日付や時刻の修正

1. 電源を入れ、DATE ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 が点滅します。
2. DATE ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。
3. ズームレバーを左右に動かすと点滅している数値を変更することができます。右に動かすと数値は進み、左に動かすと戻ります。動かし続けると約1秒後からは続けて変化します。
4. 修正後は、DATE ボタンを何度か押して点滅をなくします。

※「分」表示の点滅状態で、DATE ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。
※ 電源が切れていると日付や時刻の修正はできません。

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-0401	東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階 (私書箱240号)	☎03(3348)2941(代)
旭光学 東　京サービスセンター	〒104-0061	東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)	☎03(3571)5621(代)
〃 札　幌サービスセンター	〒060-0010	札幌市中央区北10条西18-36 ペンタックス札幌ビル4階	☎011(612)3231(代)
〃 仙　台サービスセンター	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル5階	☎022(371)6663(代)
〃 新　潟サービスセンター	〒951-8067	新潟市本町通7番町1153 新潟本町通ビル4階	☎025(224)8391(代)
〃 横　浜サービスセンター	〒231-0032	横浜市中区不老町1-6-9 横浜エクセレントⅤビル3階	☎045(681)8771(代)
〃 静　岡サービスセンター	〒420-0858	静岡市伝馬町24-2 住友建設ビル5階	☎054(255)6308(代)
〃 名古屋サービスセンター	〒461-0001	名古屋市東区泉1-19-8	☎052(962)5331(代)
〃 大　阪サービスセンター	〒542-0081	大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階	☎ 06(271)7996(代)
〃 広　島サービスセンター	〒733-0035	広島市西区南観音3-5-2 空港通りビル6階	☎082(234)5681(代)
〃 福　岡サービスセンター	〒810-0802	福岡市博多区中洲中島町3-8 パールビル1階	☎092(281)6868(代)
〃 お客様相談室	〒104-0061	東京都中央区銀座西8-10 (土橋交差点交番並び)	☎03(3572)6479

※日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。
ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラムは年中無休です。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1
三宅坂ビル3階 ☎03 (3580) 0336

旭光学工業株式会社
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

☆この使用説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

56540

01-9806